

## 川のせせらぎに癒される道

### 3 新豊島川(原田南1丁目ほか)

原田南1丁目から名神口3丁目までの川沿いに整備されている約2キロメートルの遊歩道は、昭和63年(1988)に国から「手づくり郷土賞」が贈られました。四季の変化が楽しめる草花や樹木が植えられ、散歩に最適です。



安らぎと潤いを感じてもらおうと水にまつわるモニュメントを設置しています



本物の水鳥もいます

ホタルや季節の花など観賞しよう

### ◎「名神口」の名前の由来

「名神」高速道路の入り「口」があることから、昭和41年に「名神口」という町名になりました。インターチェンジの存在は、まちにとって大きなものだったのでしよう。



昭和38年の開通直後の様子

西宮豊中線

4

## 大昔、この辺りは海だった？

### 4 島田遺跡記念碑(名神口1丁目)

この辺りには弥生時代から中世にかけて集落がありました。出土した土器の中には塩を作る器や蛸壺たこづぼなどが見られ、海辺に近い集落であったと考えられています。その後、鎌倉時代には水田を中心とした耕作地へと変化していきました。



碑には発掘当時の調査経緯や成果が記されています

# まちある記

マチカネくんと歩く

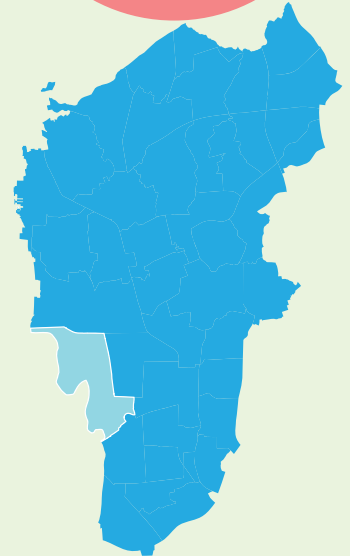


第24回

原田南から名神口へ

弥生時代からの歴史あるまち

豊島西小学校区



名神高速道路のインターチェンジがあり、工場が多く見られます。また、川の恵みを求めて古代の人びとが稲作をしていたこのまちは、猪名川の他にも新豊島川が整備されるなど、水との深い関わりがあります。

## 初夏の木漏れ日を浴びて

### 1 利倉西緑地(利倉西2丁目)



旧猪名川の堤防を利用した約350メートルの自然散策歩道です。さまざまな樹木が織りなす木漏れ日が、季節を感じさせてくれます。

## こっちの水は甘いぞ

### 2 蛍の里(原田南1丁目)

ここにある「蛍ドーム」には約50メートルの遊歩道が整備されており、毎年6月に行われる「ほたるのタベ」では、ホタルが放つ幻想的な光を間近に鑑賞することができます。

(関連記事32ページ)



### ◎猪名川を越えた校区?

豊中市は川が市境という印象がありますが、利倉西は猪名川の西側にあります。猪名川は氾濫することが多かったため、昭和43年に大規模な治水工事を実施。川筋が変わったことで、以前からの市域とは変わっていませんが、現在のように猪名川を挟んだ校区となりました。

### ◎赤橋、青橋、白橋

猪名川を渡るため、地域の人によく利用される利倉橋、新南園橋、南園歩道橋。これらの橋は、地域の人から色によって「赤橋」「青橋」「白橋」との通称で親しまれていて、昔から人や車の行き来を支えています。



写真・地図とも上から利倉橋(赤橋)、新南園橋(青橋)、南園歩道橋(白橋)

### 公園に残る神社跡

#### 5 上津島公園(上津島2丁目)



このまちにはかつて海神を祭る住吉神社がありましたが、明治40年(1907)に原田神社(中桜塚)に合祀されました。「上津島」という地名は周囲を海に囲まれた小島に由来するとの説もあり、海にゆかりのあった地域の歴史を伝えようと、同公園の南側に石碑が建てられています。



7月号は刀根山小学校区をご紹介します。お楽しみに。